

技術経営人材育成に対する オープンエデュケーションの有用性

提出日

2017年1月30日

指導教授

斎藤正武 准教授

中央大学商学部

13C3147001F 合六 春菜

13C1215007G 滋野 愛

技術経営人材育成に対するオープンエデュケーションの有用性

中央大学商学部

斎藤正武ゼミ

13C3147001F 合六 春菜

13C1215007G 滋野 愛

近年、経済産業省の行った「MOT 教育内容に関するアンケート調査（受講生・修了者対象）平成 18 年 4 月」より、技術経営人材育成プログラムは、実務経験のない教師が実務とかけ離れた講義を行うなど教員の質の問題や、教材の問題が存在する。そのため、MOT 人材を教育する環境が整っていないために技術経営教育が行き届かない現状がある。

その中で、大学の講義を無料でオンライン配信する MOOCs という試みが、MIT を中心に行われている。日本でもその流れを汲んで JM00C という取り組みが行われている。また、MOT 人材を教育する環境が整っていないために技術経営教育が行き届かないという問題の解決策として MOOCs のようなオープンエデュケーションが有効ではないかと考え、本研究では技術経営人材育成に対するオープンエデュケーションの有用性を検証した。

そこで我々は検証するために、NPO 法人 Asuka Academy の翻訳ボランティア活動に参加することで、自らオープンエデュケーションの講義作成に関わった。Asuka Academy は、世界トップレベルのオープンエデュケーションの国内学習を推進し、提供している。そのような Asuka Academy と連携をとり、全 5 章分の MIT のオープンコースウェアを翻訳し、英語の講義に日本語字幕をつけた。このような講義を被験者に受講してもらった後に、全 5 問の確認テストと全 15 問のアンケートを行って検証とした。

本研究では有用性を「満足度・日本語化の効果・理解度・関心意欲・優位性」の 5 項目に分類し考察を行った。検証の結果、満足度、関心意欲の効果は高かったものの、理解度は予測よりも下回ることとなった。考えられる要因として、受講生の技術経営分野に対する基礎知識が十分でなかったことや、オープンエデュケーションのみでは学習の継続が難しいこと、そして対面授業に対してオープンエデュケーションの優位性がまだ低いという点が挙げられる。

今後、長期的な受講期間を設けてフィードバックを得られるならば、客観的要素として学習時間・閲覧数・脱落率・終了率などを加えてオープンエデュケーションの可能性を探っていくことが考えられる。